

清泉女子大学に対する改善報告書検討結果

<大学評価実施年度：2018（平成30）年度>

<改善報告書検討実施年度：2022（令和4）年度>

清泉女子大学から改善報告書の提出を受け、本協会は改善に向けた大学全体の取り組み、1点の改善課題の改善状況について検討を行った。その結果は、以下のとおりである。

<改善に向けた大学全体の取り組み>

大学評価時に指摘を受けた事項については、中期計画においてその内容を含めるとともに、大学全体の問題として認識し重点的に改善が図られるよう、2018（平成30）年度以降、毎年、「内部質保証委員会」から理事長・学長に対して要望書を提出している。また、理事長・学長による改善措置に基づく改善状況を毎年点検し、大学基礎データに基づく数値による定量的な評価と、他部署との連携も含めた取り組みの進展状況による定性的な評価を行っている。しかしながら、大学評価時以降の新たな課題が発生しているため、それらについても今後点検・評価を行い、問題点を確実に改善していくことが望まれる。

<改善課題、是正勧告の改善状況>

提言の改善状況から、改善の成果が十分に表れているといえる。

個別の提言に対する改善に向けた大学の取り組み及びそれに対する評価は、以下のとおりである。なお、前回の大学評価時には指摘対象となっていなかった事項について、今回の改善報告書提出時には提言に相当する問題が生じているため、検討所見を参照し、次回の大学評価に向けて改善に取り組むことが求められる。

1. 是正勧告

なし

2. 改善課題

No.	種 別	内 容
1	基準	基準5 学生の受け入れ
	提言（全文）	2018（平成30）年度において、収容定員に対する在籍学生比率について、文学部英語英文学科で1.29、同地球市民学科で1.27と高いため、学部の定員管理を徹底するよう、改善が求められる。
	検討所見	文学部英語英文学科及び地球市民学科の収容定

清泉女子大学

		<p>員に対する在籍学生数比率は、両学科ともに改善が認められる。</p> <p>なお、大学評価時に、2017（平成 29）年度の数値に基づき、改善課題とはしていなかった人文科学研究科修士課程について、収容定員に対する在籍学生数比率が 0.41 と低くなっているため、大学院の定員管理を徹底するよう改善が求められる。</p>
--	--	---

◆ 再度報告を求める事項

なし

以 上